

巻頭言

両極化から高級化の時代へ

東北大学教授 倉西 茂

2極化の時代と言われてから既に久しい。事実、最近では、高級自動車市場が活発を極め、宝石やマンションを初め多くの商品が高い方から売れて行くと言われている。一方郊外に乱立するディスカウント・ショップでもそれなりに多くの人の人気を集めており、いわゆるNICS、NIES諸国の安い扇風機やVTR製品が人気を呼んでいる。確かに、人の心を満足させる物事の最適解は善と悪、快樂と苦悩のようないわゆる二元論的な二つの両極端に収斂し易く、中間と言うのはその存在価値を保つのは総て大変難しいように思える。

しかし、わが国では、高級車の売行きの絶好調に対し軽四輪の販売が落ち初め、NIES製品もかつての勢いはない。2極化より高級化の時代に入って来ているように思われる。今や、人々はより価値の高く、より豊かに感性に響くものを求め始めているように思われる。

当然、鋼橋界でも2極化の一つの流れを受け、コンクリート橋の価格に負けない、あるいはNIES諸国の製品に対して競争力のある低コストの橋梁が求められている。それは多分に生き残りを賭けて製造過程の合理化・自動化あるいは単純化し省力化を計った細部構造の採用等となっていると思われる。

しかし、高級化の時代への対応と言う点で十分な対策がとられているのか一抹の不安を感じる。橋梁における高級化は決して80キロ級の鋼を使用したとか、開先精度をどう上げたとか、あるいはある特別の形式で設計したと言うことでは無く、高級感のある存在感のある橋が求められていることだと思える。特に、鋼橋にはいわゆる安物の代名詞のように成っているブリキ細工のイメージがどうしても付きまとうのが高級感を出すのを妨げている。もちろんフォース橋や本州四国連絡橋のようにそのスケール感だけで存在価値を打ち出している例もあるが、同じブリキ細工である乗用自動車でも、ベンツのような高級車が持つ存在感とは何処か大きな隔たりがある。例えば、吊橋の主塔は醜い高力ボルト丸見えの継ぎ手は使って欲しくないし、優美な曲面で表面が構成されている方がたとえ工費がかかってもより高級感があるのでは無いだろうか。プレート・ガーターも周囲のビルディング群に負けて貰いたくはない。著者はそのウェブの外観の改善のために、フォールデット・プレートを採用してはどうかと提案してみたことがあったが、その製作の困難さとコスト高より人の特別の注意を引くことはなかった。

世の流れは完全に高級化に向かっているのであるから、それに応えられるものを鋼橋にも求められている。簡単な構造にするとか工費を下げる事のみがわが国の鋼橋界が生き残れる道では無く、高級化と合理化を高い次元で昇華させた姿が将来と共に在るべきものであるように思える。ここで、もう一度鋼橋に関係している方々と共に高級化とは何かと考える必要があるのでは無いでしょうか。